

第9回 大阪市中央区
大阪城公園



JR環状線大阪城公園駅を降りて公園を進むと、正面に金色をほどこした天守閣が見えてきた。大きな堀の手前に、そっとたたずむ石碑。「大阪砲兵工廠跡（ほうへいこうしょうあと）」と刻まれている。この公園一帯は、戦争当時、日本陸軍の兵器などを作る施設があり、6万7千人もの人が働いていた。終戦の前日（8月14日）に、大阪

空襲の標的となった理由もここにある。



える天守閣を支える石垣は、きれいに積み上げられている。しかし、北東側だけは、大きな石組がずれてしまっているのだ。これも、空襲での1トン爆弾が落ちたためという（表紙写真）。天守閣を見て歓声を上げる修学旅行生やツアー客。そのそばで、いったい何人の命が絶たれたのか。その命を失った家族の苦しみはどれほどだろう。石垣は、自らを傷つけられながら、傷つけあう人間の、どんな姿を見つめてきたのだろうか。

極楽橋を渡り、西大門を抜けて、天守閣に向かうと、登りが始まる。うっすらと額ににじむ汗。遠くから見えていた石垣に近づいてみると、長方形に切り出された石の一边は7mを超える。築城当時の秀吉の力の大きさを表すかのようである（写真）。

天守閣の横には、レンガづくりの第四師団司令部庁舎の建物（前大阪市立歴史博物館）が並び立つ。大手門をくぐって、外堀の南をまわると、戦争の犠牲になった子どもや教職員を鎮魂する教育塔が立つ。子どもたちも、この戦争で将来の人生とその夢を絶たれた。決して戦争を繰り返してはならないと心から思う。ゆるやかな坂を下ると、ピースおおさかの文字が見えてきた。

その山里曲輪（くるわ）と呼ばれる石垣の中に、黒くへこんで削れたところがある。先の戦争での空襲の弾痕である。高くそび

（「フィールドワーカー大阪城周辺に残る戦争の傷あと（ピースおおさか発行）」参照）

自分自身のままで

能勢町 中学三年生(当時) 大西 紗弥香

消えろ、と言われました。
 見ているだけでムカツクから、と
 自分の全てを否定された気がして
 とても、心が傷みました。
 そして同時に
 消えてしまいたい、と思いました。
 そうすれば
 誰も自分を否定しないから
 必要ない、と言われました。
 自分は無駄な存在でしかないと思
 い知らされて
 とても、胸が苦しくなりました。
 そして同時に
 叫びたくなりました。
 そうすれば
 誰かが自分の存在に気付いてくれる
 そう思ったから
 自分と同じように
 全てを否定された人と逢いました。
 その人は言いました。
 自分は逃げたりしない、と
 どんなに否定されても
 その気持ちは変わらない。
 負けたくないんだ、と
 その人は続けて言いました。
 確かに今は
 誰に必要とされている訳でもない
 けど
 未来もそうとは限らない
 いつかは
 必要とされる日が来るかもしれない
 だから自分は
 自分自身で在り続けるのだ、と
 消えろ、と言われました。
 必要ないから、と
 その時、思いました。
 消えてたまるか、と
 負けたくありませんでした。
 何に、とは上手く答えられませんが
 強くそう思いました。
 自分自身で在り続けようと
 決めました。
 今は誰にも必要とされていないけれど
 少なくとも
 自分には、今の自分が必要なのだから
 自分自身に、負けたくないから

2004年度人権啓発詩・読書感想文募集事業
 （大阪府 大阪府教育委員会・愛ネット大阪・財）大阪府人権協会の入選作品より

編集後記

■戦争の恐ろしさを生々しく語っていただき、「戦争が終わったことで、最初に思ったことが、ゆっくり寝ることができる」という一言に、現在の平和の有難さを改めて感じました。（T）

■「正義」という正しさの持つ力に怖さを感じた。時間は無限大ではない。私ができることは？ 命を大切にするととは？ 日常の中で考えたい。（M）

2005（平成17）年7月発行

この情報誌は20,000部作成し、1部あたりの単価は48円です。

発行／大阪府企画調整部人権室

編集／財団法人大阪府人権協会人権啓発部

〒540-8570 大阪市中央区大手前2丁目
 TEL.06-6941-0351 FAX.06-6944-6616
 http://www.pref.osaka.jp/jinken/

〒556-0028 大阪市浪速区久保吉1-6-12
 TEL.06-6568-2983 FAX.06-6568-2985
 http://www.jinken-osaka.jp

